

サンプル

2007～2008 年度厚生労働科学研究

「医療安全推進に必須の組織文化（安全文化）の測定および簡便な有害事象把握手法の開発と活用」

— 医療における安全文化に関する調査 —

〇〇〇病院

【2008 年度調査結果】

国立保健医療科学院政策科学部

2010 年 1 月 11 日

目次

第1章	患者安全文化	1
1.1	調査概要	2
1.2	貴施設における患者安全文化調査の要約	4
1.3	本報告書の見方	4
1.4	総合ランキング：他施設との安全文化の比較	5
1.5	12 側面別ランキング：改善すべき側面は何か？	7
1.6	個別の項目別比較：優れた点は何か？	9
1.7	個別の項目別比較：改善すべき点は何か？	11
1.8	職種別ランキング：特に支援が必要な職種（大分類）は？	13
1.9	職種別比較：特に支援が必要な職種（大分類）は？	17
1.10	職種/側面別比較：各職種（大分類）において支援が必要な側面は？	19
1.11	職種別比較：特に支援が必要な職種（小分類）は？	21
1.12	職種/側面別比較：各職種（小分類）において支援が必要な側面は？	23
1.13	部署別比較：特に支援が必要な部署は？	25
1.14	部署/側面別比較：各部署において支援が必要な側面は？	27
1.15	勤務形態別比較：特に支援が必要な勤務形態は？	33
1.16	勤務形態/側面別比較：各勤務形態において支援が必要な側面は？	35
1.17	自由記述（判読できない箇所は■で示した）	37
第2章	質問項目単純集計結果	41
2.1	A. あなたが働いている部署についてお聞きします (1)	41
2.2	A. あなたが働いている部署についてお聞きします (2)	42
2.3	A. あなたが働いている部署についてお聞きします (3)	43
2.4	A. あなたが働いている部署についてお聞きします (4)	44
2.5	A. あなたが働いている部署についてお聞きします (5)	45
2.6	B. あなたの上司や管理者についてお聞きします	46
2.7	C. コミュニケーションについてお聞きします (1)	47
2.8	C. コミュニケーションについてお聞きします (2)	48
2.9	D. あなたの部署の出来事の報告頻度についてお聞きします	49

2.10	E. あなたの部署の医療安全を総合的に評価して下さい	50
2.11	F. あなたの働いている病院についてお聞きします (1)	51
2.12	F. あなたの働いている病院についてお聞きします (2)	52
2.13	F. あなたの働いている病院についてお聞きします (3)	53
2.14	G. 出来事の報告数について	54
第3章	回答者の属性	55
3.1	部署	55
3.2	職種小分類	56
3.3	職種大分類/性別/年齢/勤務形態	57
3.4	実務経験年数/勤務年数(病院)/勤務年数(部署)/勤務時間	58
3.5	管理職/接する機会の有無/ケアする機会の有無	59
第4章	付録	61
4.1	箱ひげ図の読み方	61
4.2	調査票(患者安全文化)	64
4.3	患者安全文化の12側面と項目の対応	68
4.4	偏差値の計算法	69
4.5	項目別比較の計算法	70
4.6	逆転項目の記載	71
4.7	職種の小分類・大分類対応表	72
参考文献		73

患者安全文化

1.1	調査概要	2
1.2	貴施設における患者安全文化調査の要約	4
1.3	本報告書の見方	4
1.4	総合ランキング：他施設との安全文化の比較	5
1.5	12 側面別ランキング：改善すべき側面は何か？	7
1.6	個別の項目別比較：優れた点は何か？	9
1.7	個別の項目別比較：改善すべき点は何か？	11
1.9	職種別比較：特に支援が必要な職種 (大分類) は？	17
1.10	職種/側面別比較：各職種 (大分類) において支援が必要な側面は？	19
1.11	職種別比較：特に支援が必要な職種 (小分類) は？	21
1.12	職種/側面別比較：各職種 (小分類) において支援が必要な側面は？	23
1.13	部署別比較：特に支援が必要な部署は？	25
1.14	部署/側面別比較：各部署において支援が必要な側面は？	27
1.17	自由記述	37

1.1 調査概要

1.1.1 安全文化とは¹⁾

- 組織の安全文化とは、組織における健康と安全の管理に対する責任・形態・能力を決定する個人およびグループの価値観・態度・認識・能力・行動パターンの産物です。
- 良好な安全文化を持つ組織では、以下の3つの特徴を備えています。(a) 相互理解に基づいた意思の疎通、(b) 安全の重要性の共通認識、(c) 予防対策の効果に対する確信。

1.1.2 根づかせよう安全文化 みんなの努力と活かすシステム²⁾

- 医療において患者を最優先させることは、古くから医療人の基本的な行動規範とされてきました。
- 今日、患者の安全は何よりもまず優先されるべきであることを再認識し、医療に安全文化を根づかせていくことが必要です。
- 医療における安全文化とは、医療に従事する全ての職員が、患者の安全を最優先に考え、その実現を目指す態度や考え方およびそれを可能にする組織のあり方と言えるでしょう。
- なお、安全文化という言葉は、他の分野では「安全性に関する問題を最優先にし、その重要性に応じた配慮を行う組織や個人の特性や姿勢の総体」(国際原子力機関1991年)という意味で用いられています。
- 人は間違えることを前提として、システムを構築し機能させていくことが必要です。

1.1.3 具体的な取組に向けて²⁾

- 全ての職員は、安全を最優先に考えて業務に取り組みましょう。
- 安全に関する知識や技術を常に学び向上することを心がけましょう。
- 管理者のリーダーシップの発揮、委員会やリスクマネジャーの設置、教育訓練の充実といった事故予防のための体制づくりに取り組みましょう。
- 業務の流れを点検し、個人の間違いが重大な事故に結びつかないようにする「フェイルセーフ」のしくみの構築に努めましょう。

1.1.4 調査目的

- 患者安全文化を測定して、改善点を明確化する
- ベンチマーキング
- 経時的変化をみる

1.1.5 調査期間

- 平成 21 年 1～3 月

1.1.6 調査参加者

- 平成 20 年度国立保健医療科学院安全管理研究科の研修に参加した病院を中心に、ご協力頂いた 18 施設の従業員 12956 名 (回収数) (五十音順)

—

—

—

—

—

—

—

—

—

— 病院名を記載

—

—

—

—

—

—

—

—

—

- 回収率は 90.4%、有効回答率 (付録 p. 69 参照) は 86.6% でした。

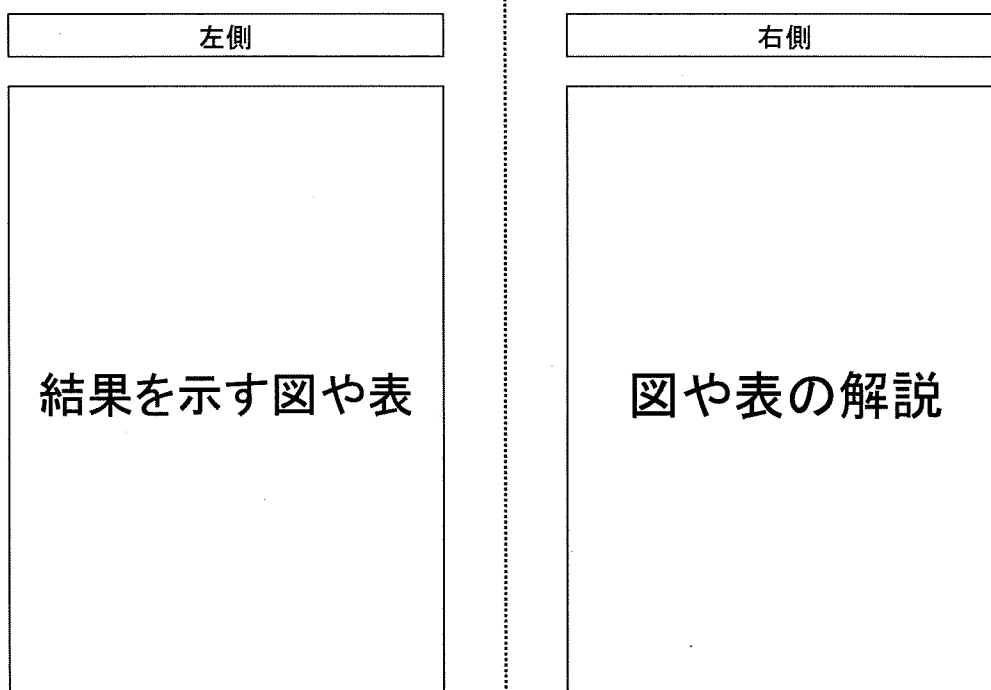
1.1.7 質問票の開発

- 米国において医療の質や安全を向上させるための機関である AHRQ (Agency for healthcare Research and Quality), U.S. Department of Health and Human Services により開発され、妥当性の証明された質問票³⁾を国立保健医療科学院 政策科学部により和訳を行いました⁶⁾。
- 付録 4.2 (p. 64) に調査票を掲載しました。

1.2 貴施設における患者安全文化調査の要約

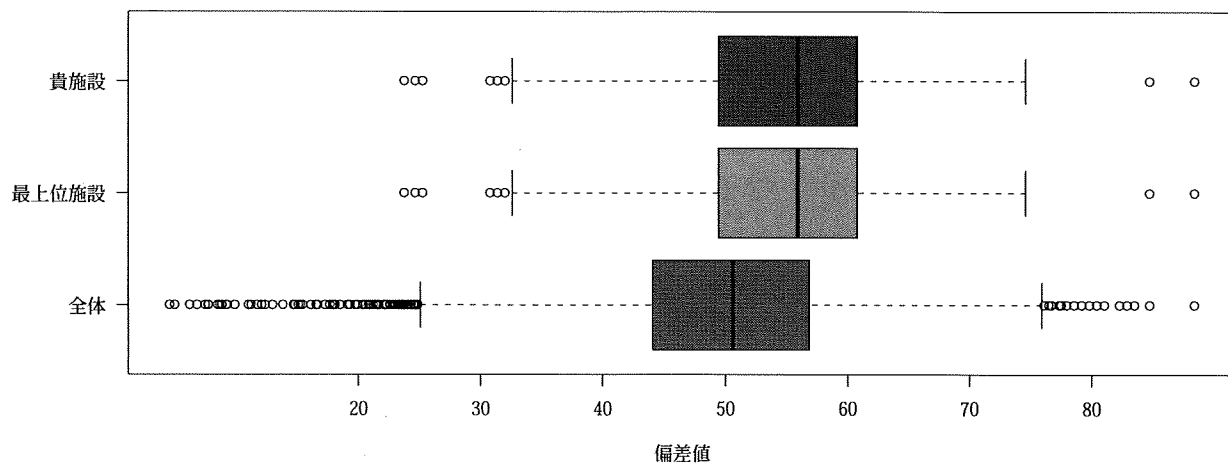
- 貴施設の患者安全文化の総合評価は 18 施設中 1 位でした。
- 対策が特に必要な職種は「薬剤師」です。
- 患者安全文化を 12 側面から評価すると、「組織学習-継続的な改善」の点が優れていました。
- また、貴施設において患者安全文化の評価の高い項目は、「繰り返し起きている医療安全の問題に配慮している」「ミスをしてもしも不利な立場になることはない」でした。
- 一方、評価の低い項目は、「私の部署のスタッフは、患者さんのケアをするために、スタッフにとって最適な労働時間で働いている」「仕事を行うのに十分な数のスタッフがいる」でした。
- 貴施設の患者安全文化を、さらに高めるために、本調査の結果が一助となることを願っております。

1.3 本報告書の見方

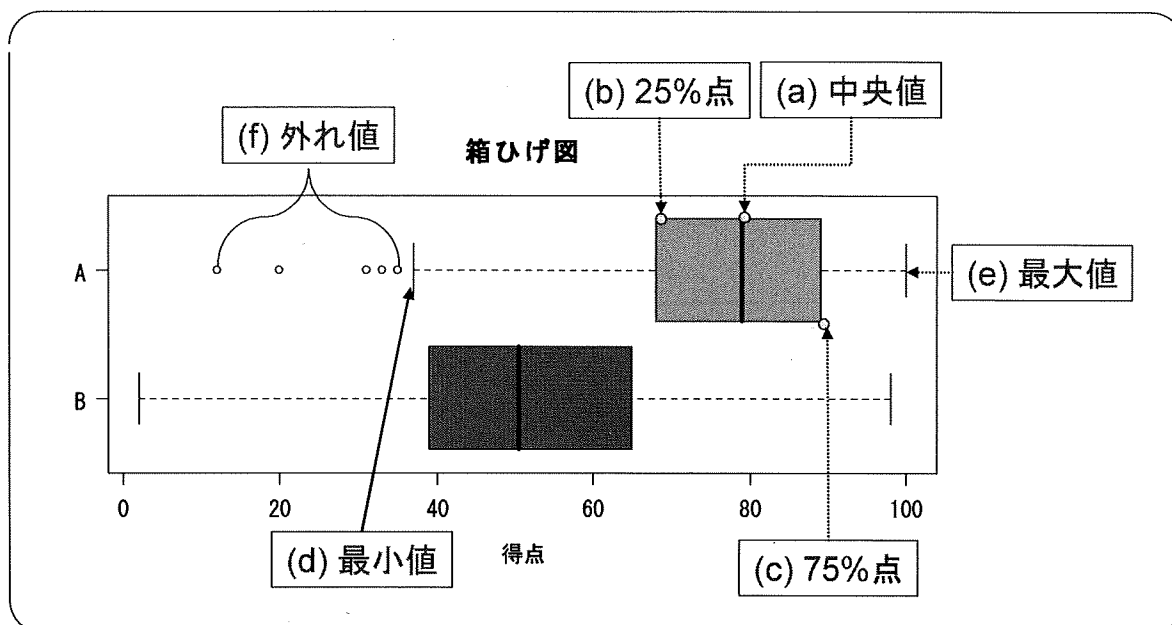


1.4 総合ランキング：他施設との安全文化の比較

順位：18施設中1位 / 偏差値：55.88



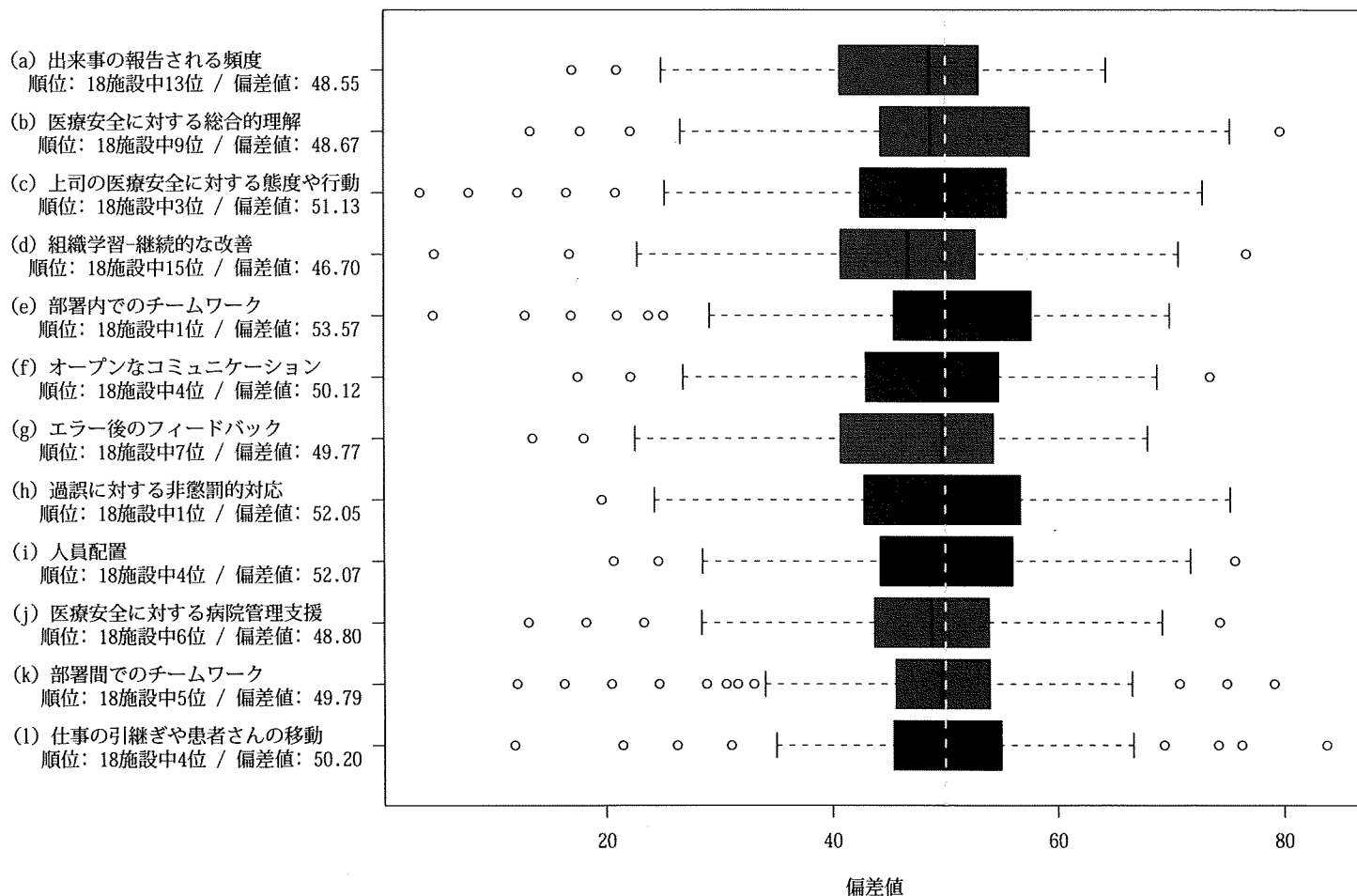
箱ひげ図解説（詳細は付録 (p. 61) に掲載）



総合ランキング 解説

- 左図は患者安全文化の総合評価の箱ひげ図です。
- 横軸は「偏差値」です。
 - (1) 偏差値が高いほど、患者安全文化が良好であることを示します。
 - (2) 偏差値 50 は、施設全体の平均値を意味します。
- 図中には以下の 3 つの箱ひげ図が描かれています。
 - (a) 最上部 貴施設の結果
 - (b) 中心部 18 施設の中で患者安全文化が最も優れている施設の結果
 - (c) 最下部 18 施設全体の結果
- 貴施設の順位と偏差値は、箱ひげ図の中央値を基に、図左上に掲載しています。
- 箱ひげ図の読み方は、付録 (p. 61) をご参照下さい。
- また、総合評価は、付録 表 4.2 (p. 68) に掲載されている 42 項目から計算されています。

1.5 12 側面別ランキング：改善すべき側面は何か？



12 側面別ランキング 解説

- 左図は患者安全文化を 12 側面から評価した箱ひげ図です。
- 横軸は「偏差値」です。
 - (1) 偏差値が高いほど、患者安全文化が良好であることを示します。
 - (2) 偏差値 50 は、18 施設全体の平均値を意味します。
- 18 施設全体の平均よりも安全文化が高い側面を青で表示しています。
- 18 施設全体の平均よりも安全文化が低い側面を赤で表示しています。
- さらに、図左方に各側面の「順位」と「偏差値」を掲載しています。
- 赤色の側面を改善するには、その側面に対応する項目の改善が必要です。
- 側面と項目の対応は、下表と 付録 表 4.2 (p. 68) をご参照下さい。

側面	項目例
(a) 出来事の報告される頻度 (3 項目)	ミスが起きたが、そのミスが患者さんに影響を及ぼす前に発見されて修正された場合、どれくらいの頻度で報告されますか？
(b) 医療安全に対する総合的理解 (4 項目)	私の部署の業務手順やシステムは、過誤を予防することができるようになっている
(c) 上司の医療安全に対する態度や行動 (4 項目)	★ 医療安全の問題が繰り返し起きていても見過ごしている
(d) 組織的-継続的な改善 (3 項目)	医療安全を向上させるための変更を行った後、その効果を評価している
(e) 部署内でのチームワーク (4 項目)	私の部署のどこかが非常に多忙になった場合、他のスタッフが手助けする
(f) オープンなコミュニケーション (3 項目)	★ 「何か違う」と感じても質問しづらい雰囲気がある
(g) エラー後のフィードバック (3 項目)	私の部署では、過誤の再発防止策について皆で議論している
(h) 過誤に対する非懲罰的対応 (3 項目)	★ スタッフは、自分のミスが人事記録に残されることを心配している
(i) 人員配置 (4 項目)	★ あまりにも多くのことを、あまりにも大急ぎでやろうと、“緊急事態”のように仕事をしている
(j) 医療安全に対する病院管理支援 (3 項目)	★ 病院経営者たちは、有害事象(事故)が起きた後でしか医療安全に関心を払わないようである
(k) 部署間でのチームワーク (4 項目)	患者さんに最高のケアを提供するため、部署同士がよく協力している
(l) 仕事の引継ぎや患者さんの移動 (4 項目)	★ 私の病院の勤務交替制は、患者さんにとって問題がある

1.6 個別の項目別比較：優れた点は何か？

表 1.1 評価が良好だった項目

項目内容	貴施設	全施設の結果における比率		
		最高比率	平均比率	最低比率
(1) 私の部署では、スタッフはお互いに助けあって仕事を している	81.1	94.0	83.4	76.3
(2) 繰り返し起きている医療安全の問題に配慮している	77.1	85.1	79.4	72.1
(3) 早急にすませるべき仕事が多いときには、仕事を終わ らせるために、チームとして一緒に取り組む	76.2	87.0	75.6	68.4
(4) 患者さんに害を及ぼしうるミスが起きたが、実際には 害が及ばなかった場合、どれくらいの頻度で報告され ますか？	71.6	80.6	71.4	60.3
(5) 自分達の部署で起きた過誤について知らされている	71.5	81.2	70.1	53.5

個別の項目別比較 解説

- 表 1.1 は、項目別の比較において、貴施設内での評価が良好だった項目です。
- 表 1.1 の数値は、各項目に肯定的な回答をした者の比率を示しています。従って、数値が高いほど望ましい評価となります。
- 表 1.1 には、全施設における相対的な位置を示すために、全施設の結果における最高比率、平均比率、最低比率が併記してあります。
- なお、表 1.1 の項目内容は、一部、実際に使用した質問とは異なる表現で掲載しています。詳細は、付録表 4.3 (p. 71) をご参照下さい。
- 表 1.1 の計算方法は、付録 (p. 70) をご参照下さい。

1.7 個別の項目別比較：改善すべき点は何か？

表 1.2 評価が悪かった項目

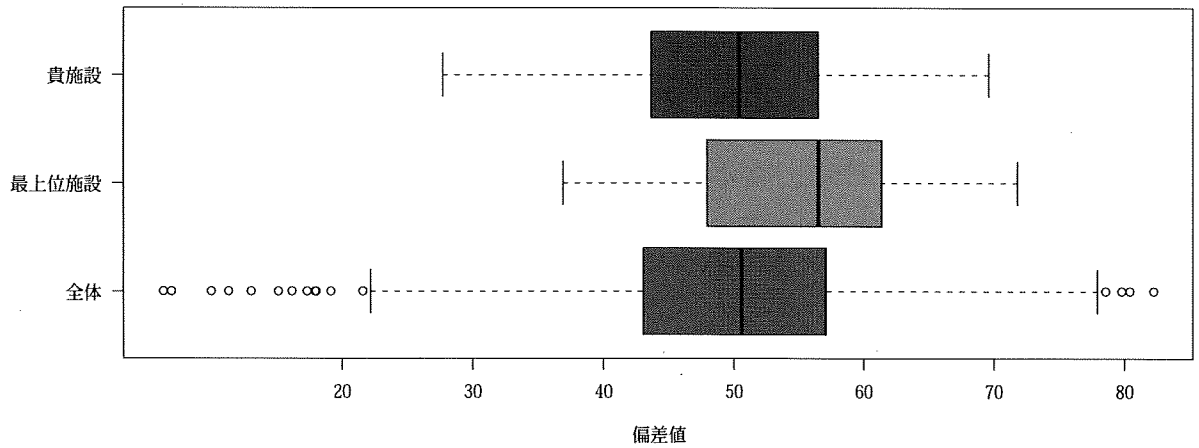
項目内容	貴施設	全施設の結果における比率		
		最低比率	平均比率	最高比率
(1) 私の部署のスタッフは、患者さんのケアをするために、スタッフにとって最適な労働時間で働いている	53.0	32.0	56.3	73.8
(2) 仕事を行うのに十分な数のスタッフがいる	33.6	32.6	45.8	60.5
(3) ミスをしてもしも不利な立場になることはない	33.1	20.7	35.3	45.3
(4) 自分よりも権威のある者の決定や行為に対して、自由に疑問を表明できると感じている	24.8	16.8	29.7	37.9
(5) 病院内の各部署間の連携がよい	24.2	19.5	32.8	48.8

個別の項目別比較 解説

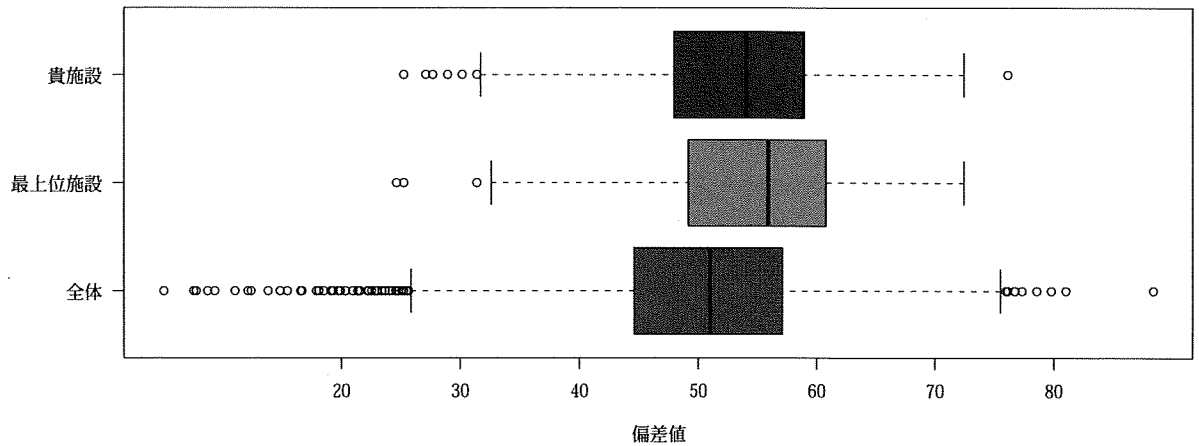
- 表 1.2 は、項目別の比較において、貴施設内での評価が悪かった項目です。
- 表 1.2 の数値は、各項目に否定的な回答をした者の比率を示しています。従って、数値が低いほど望ましい評価となります。
- 表 1.2 には、全施設における相対的な位置を示すために、全施設の結果における最低比率、平均比率、最高比率が併記してあります。
- なお、表 1.2 の項目内容は、一部、実際に使用した質問とは異なる表現で掲載しています。詳細は、付録表 4.3 (p. 71) をご参照下さい。
- 表 1.2 の計算方法は、付録 (p. 70) をご参照下さい。

1.8 職種別ランキング：特に支援が必要な職種（大分類）は？

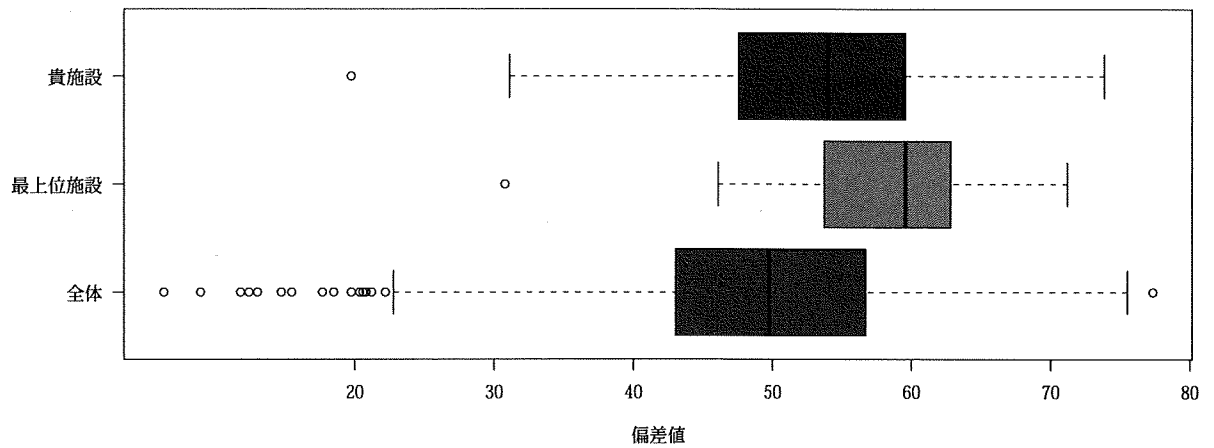
医師 順位：17施設中11位 / 偏差値：50.37



看護職 順位：18施設中2位 / 偏差値：54.05



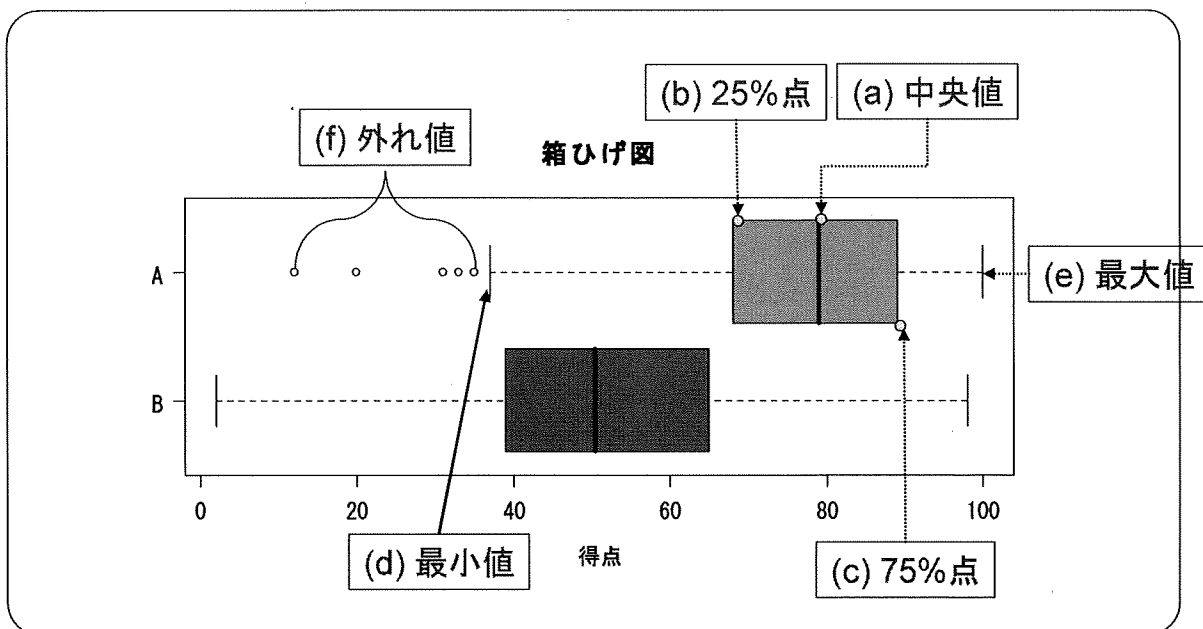
コ・メディカル 順位：18施設中3位 / 偏差値：54



職種別ランキング 解説

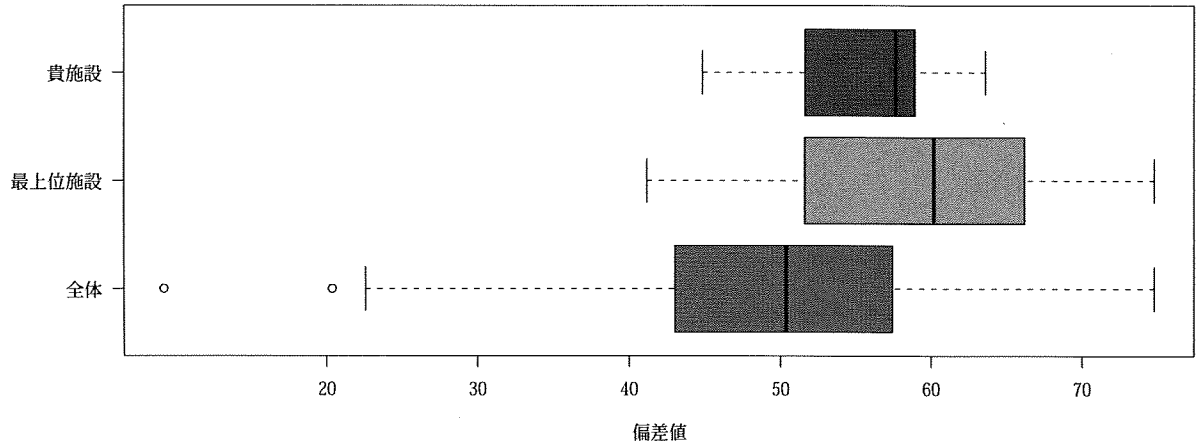
- 左図は患者安全文化の職種別評価の箱ひげ図です。
- 横軸は「偏差値」です。
 - (1) 偏差値が高いほど、患者安全文化が良好であることを示します。
 - (2) 偏差値 50 は、施設全体の平均値を意味します。
- 図中には以下の3つの箱ひげ図が描かれています。
 - (a) 最上部 貴施設の結果
 - (b) 中心部 18 施設の中で患者安全文化が最も優れている施設の結果
 - (c) 最下部 18 施設全体の結果
- 貴施設の順位と偏差値は、箱ひげ図の中央値を基に、図左上に掲載しています。
- 箱ひげ図の読み方は、付録 (p. 61) をご参照下さい。
- また、総合評価は、付録 表 4.2 (p. 68) に掲載されている 42 項目から計算されています。

箱ひげ図解説（詳細は付録 (p. 61) に掲載）

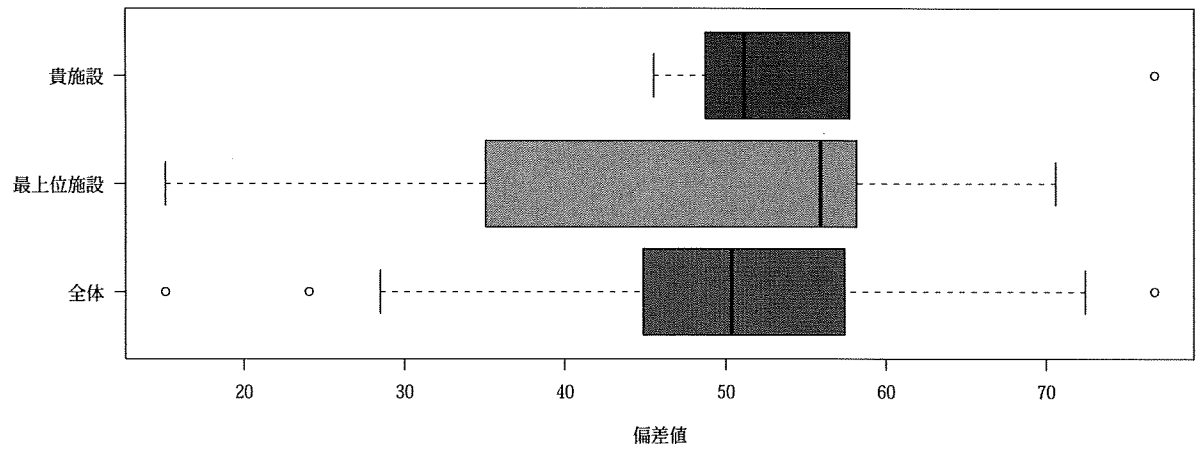


職種別ランキング つづき・・・

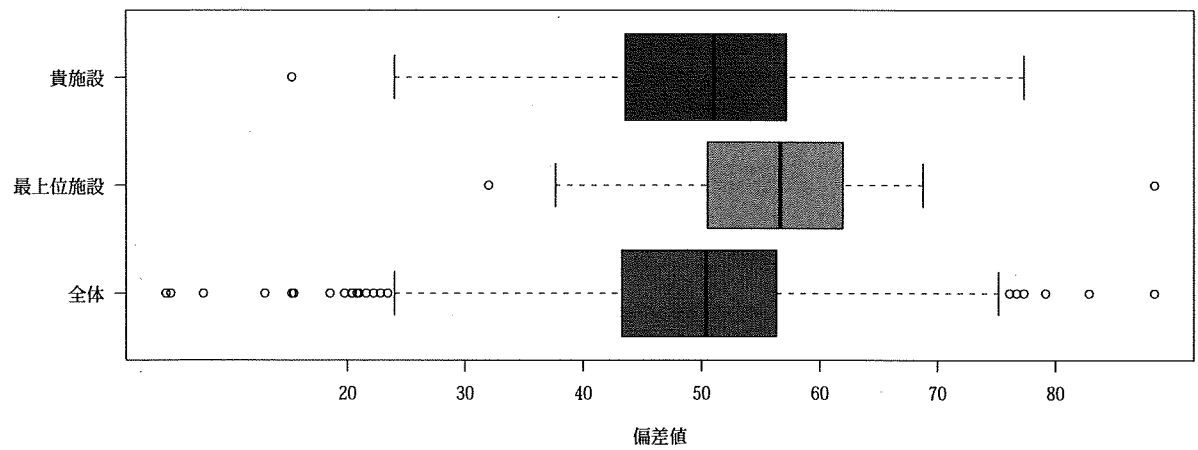
薬剤師 順位：15施設中3位 / 偏差値：57.65



臨床工学技士 順位：7施設中3位 / 偏差値：51.12



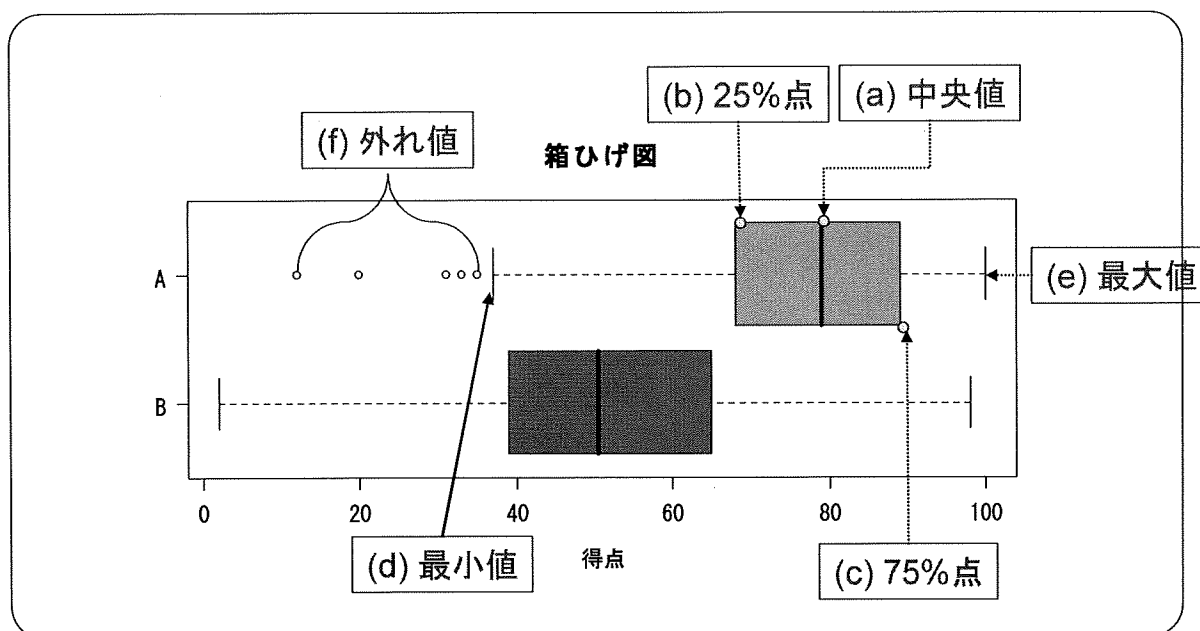
事務職員 順位：18施設中8位 / 偏差値：51.01



職種別ランキング 解説 (再掲)

- 左図は患者安全文化の職種別評価の箱ひげ図です。
- 横軸は「偏差値」です。
 - (1) 偏差値が高いほど、患者安全文化が良好であることを示します。
 - (2) 偏差値 50 は、施設全体の平均値を意味します。
- 図中には以下の 3 つの箱ひげ図が描かれています。
 - (a) 最上部 貴施設の結果
 - (b) 中心部 18 施設の中で患者安全文化が最も優れている施設の結果
 - (c) 最下部 18 施設全体の結果
- 貴施設の順位と偏差値は、箱ひげ図の中央値を基に、図左上に掲載しています。
- 箱ひげ図の読み方は、付録 (p. 61) をご参照下さい。
- また、総合評価は、付録表 4.2 (p. 68) に掲載されている 42 項目から計算されています。

箱ひげ図解説 (詳細は付録 (p. 61) に掲載)



1.9 職種別比較：特に支援が必要な職種（大分類）は？

